

第 1 回茅野市地域創生総合戦略有識者会議

開催日時	令和 2 年 12 月 16 日（水） 午後 6 時 30 から午後 8 時まで		
開催場所	茅野市役所議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会議事項</p>		
事務局	<p>(1) 地方創生推進交付金対象事業の実績等について（資料 1）</p> <p>ー 商工課、観光まちづくり推進課より推進交付金対象事業の実績等について説明ー</p>		
委員	<p>表の見方を教えて頂きたい。例えば、(事業名「コワーキングスペースを活用した地域力向上まちづくり事業」の R1 の実績値) 新規創業者数-7 という数字はなんに対しての数字なのか。</p>		
商工課長	<p>まず目標については、前年に対する増加の目標が 4 ということ。令和元年度は、前年の実績数値の総数では、25 人創業者がいたが、今年度は創業者数が 18 人だった。前年に対して創業者が 4 人増加するという目標を掲げていたが、実際のところ H30 の創業者が 25 人に対して R1 は 18 人だったため、-7 人ということ。すべて前の年からどうなったかという数字。</p>		
委員	<p>令和元年度の数字ということはコロナウイルスの影響を大きく受ける前の数字だったということか。</p>		
事務局	<p>令和元年度について、1 月から 3 月はコロナウイルスの影響を受けている。各事業の進捗についても、例えば、地方創生推進交付金を活用して古民家を建築しようとした際に、トイレの納入が遅れるといった具体的な影響も発生していた。観光客の流れについても、1 月から 3 月は影響を受けている。</p>		
事務局	<p>(2) 横断的施策(6)「暮らしやすい未来都市・茅野の構築」について （資料 2）（資料 3）（資料 4）（資料 5）</p> <p>ー事務局より未来都市・茅野の 6 つの要素事業と、その実現に向けた手段の一つである、スーパーシティ構想（国家戦略特区）への申請を検討している旨説明ー</p>		
市長	<p>6 つの要素事業等について説明があり、それらを実現するためにスーパーシティ構想への申請も見据えているという説明があった。基本的には第 2 次総合戦略を形にしていくために、6 つの要素事業があり、それを中心に進めていく。それを進めていくためには、スーパーシティへのエントリーをすることが近道になるのではないか、</p>		

	<p>ということ。</p> <p>スーパーシティは非常にハードルが高いため、採択されない可能性も十分にある。仮に採択がなされなかったとしても進めていく前提で考えていただきたい。進捗状況は違うが、この6つの事業は動き始めている。スーパーシティに採択されようがされまいが、進めていくことでご了解を得ていきたい。茅野市は従来から「福祉・環境・教育」という3つの大き施策について力を入れてきた。それらをブラッシュアップし、さらに磨きをかけていく予定。それらにこれら6つの事業をかぶせていくイメージを持っていただけるとありがたい。また、資料4にもあるとおり、6つの要素事業はその他の事業にもリンクをして行く。そんなイメージでご理解をいただきたい。</p>
委員	<p>2点お願い。旧来、箱モノが負の遺産として残っているということがままあるが、デジタルでも予算をかけたものを使いづらい、使えないなど同様のことが起こる可能性がある。専門的な内容なので、市の職員とプロの事業者の間で直接サービスを検討していると事業者にすべてお任せになってしまうケースも起こり得る。地元の若くてデジタルに明るい方を市と事業者の間に入れていただくと、市民の意見も入ったサービスになるのではないか。商品だけはよいけど使いづらいものではなく、利用者が使いやすい設計をしていただければありがたい。使いやすいものを作るために、地元のデジタルに明るい方を巻き込んでいただきたい。</p>
事務局	<p>スーパーシティの申請についてだが、申請段階では、システムの仕様等の検討はなされない。スーパーシティは特区のエリア認定をいただくためのもの。資料5の右側に「未来都市検討のための新組織へ移行」とあるが、採択後に、地元の方や有識者の方を含める形でしっかりとシステムや利用にあたっての検討をさせていただければと思っている。</p>
市長	<p>国家戦略特区は、規制緩和を主な目的として5年くらい前に始まり、10の自治体が採択された。(採択されたのは)大きな自治体が多かったが、第一期で注目されたのが兵庫県養父市。人口2万5千人程度の小さな市だが、そこは荒廃農地をなんとかしたいということで、国家戦略特区を活用して民間での農地の売買をできるようにした。国家戦略特区は、規制緩和により経済活動を活発化させていくことを基本的な理念としている。その延長線上にあるものがスーパーシティ構想。そのため、スーパーシティ構想の採択にあたっては、規制があるがゆえに、地元の課題解決ができないというものを取り払うことで何ができるかが大事な要素となる。</p>
委員	<p>基本的な質問で恐縮だが、スーパーシティに採択されるとできないことができるようになる、という話か。</p>
事務局	<p>現状、住民が暮らしやすいまちになるために障壁となっている法規制に対し、国家戦略特区になることでその規制を取り除こうというもの。どの規制を緩和するかについてもこれから検討を進めていきたい、という段階。</p>
委員	<p>デジタルで気になるのが、ALL ちのアプリ。現状でこうしたデジタル行政サービスを実現した自治体はあるか。</p>
事務局	<p>これからのまちづくりの中では、こうした住民とのコミュニケーションをとるためのアプリケーションが重要になってくる。先行自治体としては、福島県会津若松市</p>

	<p>や、マイナンバーを活用した自治体として石川県加賀市がある。国でも全国標準化した都市 OS というものを検討している。自治体ごとに作りあうのでは効率が悪いので、できるだけ標準化して共有化していきたいというのが国の方向性。先進自治体の取組を視野に入れながら使えるものは使わせていただく。そうした方向も検討している。</p>
委員	<p>茅野市のスーパーシティ構想は実現できれば素晴らしいことだと思います。現実を直視した中で将来の市民と SDG s との整合性を説明いただきたい。</p>
事務局	<p>SDG s との整合とのことだが、茅野市は縄文プロジェクトを推進している。それは、縄文時代の暮らし、精神性を学び、後世に伝えていこうというもの。縄文時代は皆が支え合って暮らしていた。また、環境負荷がない暮らしをしていた。まさに現在の SDG s の取組。それをどのように後世に伝えるか。これからの方向性として、新しい技術を取り入れる中で、皆で支え合い、環境負荷がないまちづくりをしていければ。スーパーシティの取組の中でも、新しい技術を取り入れながら、環境負荷がかからない、また、支えあいの暮らしに戻していく取り組みになっていくのではないかと考えている。そうした思いでこのスーパーシティを進められればと考えている。</p>
委員	<p>素晴らしいと思って聞いているが、進め方で確認しておきたい部分がある。様々な（茅野市ならではの）アイデアがここに載っているが、例えば CM ではトヨタが富士山のふもとで新しいまちをつくらと言っている。また、先ほどスーパーシティには多くの自治体が名乗りを上げているとの話があった。3 月や 4 月になると他の自治体が何をやりたいか、また採択された内容がどのようなものかという情報が我々にも入ってくる。（茅野市が）採択されてもされなくてもこの方針を進めるということで、素晴らしいことだと思うが、一方で採択されたアイデアの中に、（茅野市の提案よりも）素晴らしいアイデアがあるのであれば、そうした意見を取り込み、見直しもかけていくのかを確認したい。</p>
事務局	<p>現段階で茅野市では、まずこの 6 つの事業を始めている。他にもやるべき部分はあると思うが、まずは実現性が高くニーズのあった部分を進めたいということ。スーパーシティは 60 弱の自治体が手を上げることとして検討しており、その中で採択は 5 自治体くらいということを聞いている。国は国内にスーパーシティの 5 つの山を作りたいのではなく、水平展開をして行きたいという思いがある。すべての自治体がスーパーシティになるような展開を期待している。他自治体のスーパーシティの取組みの中で取り入れられる部分があれば、取り入れられるように見直しをしていくことになろうかと思う。</p>
市長	<p>まずはスーパーシティに採択されるべく全力で取り組みたいと思っている。結果次第で第 2 次総合戦略を現実のものにしていくためにどうすればよいかを改めて考えていくという形になろうかと思う。他の先進事例を勉強している過程において仲間もできてきている。様々な手法も考えられるので、その時その時で最良の方法を選択していきたい。</p>
委員	<p>本日始めて出席させていただいており、論評を申し上げる立場ではないことをあらかじめ申し上げる。非常に素晴らしい提案だと思う。すべて成就すれば茅野市に住みたいと思う人が増えるのではと感じている。スーパーシティの採択に向けてはハードの部分の議論に重きを置かなければいけない部分もあるのかと思うが、本当に</p>

	<p>茅野市が住みたいまちになるためには、精神性の部分やおもてなしの心も必要かと思う。いわゆる結というのがそれにあたると思うが。聞いた話だと、引っ越してきた方が地域に溶け込むのに比較的障壁が高いという話も聞いている。メンターの部分も含めてブラッシュアップしていければ素晴らしいまちになるのでは。</p>
<p>委員</p>	<p>農業には明るいが、6つの要素事業の中に農業に関わる部分がないので言えることは多くないが、こうしたことが実現すれば市民が暮らしやすくなるように感じる。私は富士見に住んでいるが、昔、富士見で観光用のアプリや花を生産するアプリという非常にコアなアプリ開発に着手しようとして議会に認められなかったということがある。お金の部分も含めて認められなかった。特区での規制改革や国の予算がついてくることになろうかと思うが、お金がかかることに対しては、たとえ市民のためになることとはいえ、市民や議会の理解を得ていかなければ難しいと思う。うまくやっていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>要素となる事業は、今ここで急に出た言葉でなく、コロナの前から聞いたことがあるような言葉ばかり。事業を進めていくときには、国がこうだから、こういう時代だからすぐにやりましょう、と言ってすぐ動けるわけではない。やはり時代を先取り、前々から検討していたことを、チャンスを活かして具体化していくことが重要。地方の小さなまちが、こういう機能を持ち、非常に暮らしやすいまちであるとなったら売りになる。他の自治体と差別化できる。</p> <p>若者が都会で働きたいという気持ちはよくわかる。コロナによって色々な線引きが緩和された。例えば、地元で働こうと思っても、地元には働きたい企業がない。だが、コロナによって都会に就職しても地元でリモートで働けることが分かってきた。そうした線引きがなくなってくる時代がくるように感じている。</p> <p>また、スーパーシティの申請にあたっては、茅野市らしさを出すと注目してもらえるかもしれない。茅野市らしさとはもちろん縄文もあるが、テレワークやワーケーションでも茅野市はリゾートの中でできる、という付加価値がある。茅野市は駅から扇状にまちが広がっているが、要所にハブとなる施設がある。ハブを中心としたデマンド交通や、諏訪中央病院を中心として交通手段がない方でも遠隔で診療を受けられる環境等、様々な分野で茅野らしさを表現していくと他にはない良い提案になるのでは。</p>
<p>委員</p>	<p>専門分野は仕事だが、ハローワークで関わる仕事は、リモートではなく直接雇用。スーパーシティやリモートワーク等、最先端の部分になるが、そこと今後どう絡むかが見えない。素晴らしい内容であることは感じているので、今後も意見を集めて良い方向に進めていければよい。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナの影響で今年の3月から8月まで一度も東京に帰らずテレワークで仕事をしてきた。今までの25年の別荘生活の中で新記録。そこで気づいたことがあり、リゾートを考えたときに他とは違う環境でテレワークができる。ワーケーションという言葉は違うと感じている。そうした意味でもリゾートテレワークという言葉を使っている長野県は正しいと思っている。パッケージは暴飲暴食をして、非日常を楽しむもの。一方で、別荘の生活やワークは日常。そこで、観光が日常になるようなウェルネスとテレワークを組み合わせたウェルネステレワークという概念ができればよいと感じている。ウェルネステレワークができるまちになればよい。茅野市に来てテレワークをしながら健康になろうということ。これは、ヒルズにいるメンバーに非常に刺さるキーワード。先日 Youtube でもウェルネステレワークを紹介し 70</p>

	<p>名くらいの方に視聴いただき、好評だった。テレワークに「養生」、休むという概念を組み合わせると、他に真似ができないものになる。</p> <p>もう一点、SDGsのことを話している方がいたが、地方全般に言えることだが女性の社会進出が遅れていると感じている。先日、「のらざあ」のお手伝いをされていて気づいたことだが、なぜ女性が社会進出できないか。それは送迎に時間を取られすぎているから。既に多くの女性が送迎に時間を取られているが、これから団塊の世代が免許を返納したらさらに送迎の時間が増えてしまう。SDGsの観点から見てもひとり一台車に乗っていて、CO2の排出量も多いのでは、SDGsからは程遠い。逆に交通がそこだけの採算ではなく、女性のキャリアアップにもつながっていると考えられれば良いのでは。パートの仕事を募集したときに15時までで募集をすると殺到するが、フルタイムにすると人が集まらなくなる。</p> <p>東京では小学校1年生から公共交通に乗って移動して、両親は共働きで女性もキャリアを積んでいるという状況。この場いきなり女性が連れてこられても、キャリアを積んでいなければ皆さんと対等に話ができない。ただセミナーをやるのではなく、女性たちが働く時間を確保できる環境づくりをすることが重要だと感じた。</p> <p>女性の社会進出と別荘に関してのウェルネステレワーク。茅野市の持つ様々な資源を組み合わせた茅野市ならではのものを生み出せばよい。</p> <p>例えば別荘地でも、病院から常に見守られていて、異常があればすぐに救急が来るようなシステムがあれば、別荘地の値段は一気に上がる。また、公共交通があつてまちまで飲みに行くことができるという環境を整えば値段があがる。そうした未来がすぐそこまで来ているので、ぜひ進めていただければと思っている。</p>
事務局	<p>応援いただくメッセージ、ご意見を多数頂戴した。スーパーシティの申請に向けて、狭き門だが頑張っていきたいと思うのでご協力をお願いしたい。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>次回会議について、2月後半から3月頃を予定している。会場含め改めて会議通知申し上げる。2月には第1次総合戦略の書面報告を行いたい。ご意見等はメール等で頂戴できればと思う。</p> <p>(その他意見なし)</p>
	<p>6 閉会 (19:54)</p>